

教科 No.	2201	授業科目	宇宙の物理 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	藤原隆男			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 星・銀河など、地球をとりまく天体の世界についての最近の知見を学ぶことを通して、各自の自然観を広げることを目的とする。</p> <p>【授業概要】 夜空に見える星はいったい何ものか。天文学は、想像力と物理を駆使してこの問いに答えを与えた。この授業では、星や銀河を中心に、現代天文学が描く宇宙像について講義する。また、それぞれの理論の成立過程についても述べる。予備知識はとくに必要としない。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 序-天文学から天体物理学へ</td> <td>9. 星の最期-超新星</td> </tr> <tr> <td>2. 予備知識1-長さのスケールと単位</td> <td>10. コンパクト星-白色矮星, 中性子星, ブラックホール</td> </tr> <tr> <td>3. 予備知識2-黒体放射, 絶対温度, 物質の状態</td> <td>11. 元素の起源-星は元素合成装置</td> </tr> <tr> <td>4. 天体の諸階層-惑星, 恒星, 銀河, 銀河団, 宇宙</td> <td>12. 銀河の分類</td> </tr> <tr> <td>5. 星の構造-星は巨大ガス球</td> <td>13. 銀河の構造</td> </tr> <tr> <td>6. 星の進化1-原始星から主系列星へ</td> <td>14. 銀河の集団-銀河団と銀河群</td> </tr> <tr> <td>7. 星の進化2-主系列星の内部</td> <td>15. 宇宙の大規模構造</td> </tr> <tr> <td>8. 末期の星-赤色巨星</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートの成績に講義への参加度を加味して評価する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 加藤万里子「新版 100億年を翔ける宇宙」, 恒星社厚生閣 2,310円</p> <p>※備考 次年度休講予定</p>						1. 序-天文学から天体物理学へ	9. 星の最期-超新星	2. 予備知識1-長さのスケールと単位	10. コンパクト星-白色矮星, 中性子星, ブラックホール	3. 予備知識2-黒体放射, 絶対温度, 物質の状態	11. 元素の起源-星は元素合成装置	4. 天体の諸階層-惑星, 恒星, 銀河, 銀河団, 宇宙	12. 銀河の分類	5. 星の構造-星は巨大ガス球	13. 銀河の構造	6. 星の進化1-原始星から主系列星へ	14. 銀河の集団-銀河団と銀河群	7. 星の進化2-主系列星の内部	15. 宇宙の大規模構造	8. 末期の星-赤色巨星	
1. 序-天文学から天体物理学へ	9. 星の最期-超新星																				
2. 予備知識1-長さのスケールと単位	10. コンパクト星-白色矮星, 中性子星, ブラックホール																				
3. 予備知識2-黒体放射, 絶対温度, 物質の状態	11. 元素の起源-星は元素合成装置																				
4. 天体の諸階層-惑星, 恒星, 銀河, 銀河団, 宇宙	12. 銀河の分類																				
5. 星の構造-星は巨大ガス球	13. 銀河の構造																				
6. 星の進化1-原始星から主系列星へ	14. 銀河の集団-銀河団と銀河群																				
7. 星の進化2-主系列星の内部	15. 宇宙の大規模構造																				
8. 末期の星-赤色巨星																					

教科 No.	2202	授業科目	宇宙の物理 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	藤原隆男			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 宇宙論, 太陽系の起源, 地球の歴史についての最近の知見を学ぶことを通して、各自の自然観を広げることを目的とする。</p> <p>【授業概要】 ここはどこか。われわれはどこから来たのか。現在の天文学はこれらの問いに明快に答えることができる。この授業では、宇宙論と太陽系起源論を中心に、最近の天文学や惑星物理学の発展について講義する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 宇宙論の歴史-19世紀までの宇宙論</td> <td>9. 太陽系起源論の歴史</td> </tr> <tr> <td>2. 宇宙膨張の発見</td> <td>10. 太陽系の構造</td> </tr> <tr> <td>3. 宇宙膨張の力学と宇宙の構造</td> <td>11. 太陽系星雲と地球型惑星の形成</td> </tr> <tr> <td>4. 宇宙の地平線</td> <td>12. 巨大ガス惑星, 巨大氷惑星の形成</td> </tr> <tr> <td>5. 宇宙の進化-ビッグバン理論</td> <td>13. 準惑星, 微小天体の起源</td> </tr> <tr> <td>6. 宇宙の晴れ上がりと宇宙背景放射</td> <td>14. 月の起源-ジャイアントインパクト</td> </tr> <tr> <td>7. ダークマターの発見</td> <td>15. 地球の歴史, スノーボールアース</td> </tr> <tr> <td>8. 宇宙のインフレーションとダークエネルギー</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートの成績に講義への参加度を加味して評価する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 加藤万里子「新版 100億年を翔ける宇宙」, 恒星社厚生閣 2,310円</p> <p>※備考 次年度休講予定</p>						1. 宇宙論の歴史-19世紀までの宇宙論	9. 太陽系起源論の歴史	2. 宇宙膨張の発見	10. 太陽系の構造	3. 宇宙膨張の力学と宇宙の構造	11. 太陽系星雲と地球型惑星の形成	4. 宇宙の地平線	12. 巨大ガス惑星, 巨大氷惑星の形成	5. 宇宙の進化-ビッグバン理論	13. 準惑星, 微小天体の起源	6. 宇宙の晴れ上がりと宇宙背景放射	14. 月の起源-ジャイアントインパクト	7. ダークマターの発見	15. 地球の歴史, スノーボールアース	8. 宇宙のインフレーションとダークエネルギー	
1. 宇宙論の歴史-19世紀までの宇宙論	9. 太陽系起源論の歴史																				
2. 宇宙膨張の発見	10. 太陽系の構造																				
3. 宇宙膨張の力学と宇宙の構造	11. 太陽系星雲と地球型惑星の形成																				
4. 宇宙の地平線	12. 巨大ガス惑星, 巨大氷惑星の形成																				
5. 宇宙の進化-ビッグバン理論	13. 準惑星, 微小天体の起源																				
6. 宇宙の晴れ上がりと宇宙背景放射	14. 月の起源-ジャイアントインパクト																				
7. ダークマターの発見	15. 地球の歴史, スノーボールアース																				
8. 宇宙のインフレーションとダークエネルギー																					

教科 No.	2203	授業科目	現代物理 1	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	藤原隆男			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p>今年度休講</p>					

教科 No.	2204	授業科目	現代物理 2	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	藤原隆男			開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p>今年度休講</p>					

教科 No.	2205	授業科目	物質の化学 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	高林弘実			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 我々は、様々な物質に取り囲まれている。それらと適切に付き合い、取り扱うことができるよう、化学の基礎を理解することを目標とする。</p> <p>【授業概要】 身近な現象や物質を取りあげ、化学の基礎から講義する。本講義では、物質の基本的な成り立ちについて説明する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 身の回りの物質②</td> </tr> <tr> <td>2. 物質とは何か</td> <td>10. 物質の状態① 物質の状態を決める要因</td> </tr> <tr> <td>3. 元素とは何か</td> <td>11. 物質の状態② 固体</td> </tr> <tr> <td>4. 物質を構成する粒子 - 原子</td> <td>12. 物質の状態③ 気体</td> </tr> <tr> <td>5. 物質中で原子はどう結びついているのか① - 金属</td> <td>13. 物質の状態④ 液体・溶液</td> </tr> <tr> <td>6. 物質中で原子はどう結びついているのか② - イオン</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 物質中で原子はどう結びついているのか③ - 分子</td> <td>15. 期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. 身の回りの物質①</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末試験の成績に講義への参加度を加味して評価する</p> <p>【履修上の注意】 高校までの化学を履修している必要はない</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 化学（入門編）－身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ 化学同人発行 定価 2,000 円</p> <p>※備考 事情により、授業内容の変更もあります。</p>						1. ガイダンス	9. 身の回りの物質②	2. 物質とは何か	10. 物質の状態① 物質の状態を決める要因	3. 元素とは何か	11. 物質の状態② 固体	4. 物質を構成する粒子 - 原子	12. 物質の状態③ 気体	5. 物質中で原子はどう結びついているのか① - 金属	13. 物質の状態④ 液体・溶液	6. 物質中で原子はどう結びついているのか② - イオン	14. まとめ	7. 物質中で原子はどう結びついているのか③ - 分子	15. 期末試験	8. 身の回りの物質①	
1. ガイダンス	9. 身の回りの物質②																				
2. 物質とは何か	10. 物質の状態① 物質の状態を決める要因																				
3. 元素とは何か	11. 物質の状態② 固体																				
4. 物質を構成する粒子 - 原子	12. 物質の状態③ 気体																				
5. 物質中で原子はどう結びついているのか① - 金属	13. 物質の状態④ 液体・溶液																				
6. 物質中で原子はどう結びついているのか② - イオン	14. まとめ																				
7. 物質中で原子はどう結びついているのか③ - 分子	15. 期末試験																				
8. 身の回りの物質①																					

教科 No.	2206	授業科目	物質の化学 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	高林弘実			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 我々は、様々な物質に取り囲まれている。それらと適切に付き合い、取り扱うことができるよう、化学の基礎を理解することを目標とする。</p> <p>【授業概要】 身近な現象や物質を取りあげ、化学の基礎から講義する。本講義では、主に化学反応論と機器分析化学について説明する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 光と物質② 色の化学</td> </tr> <tr> <td>2. 物質のなりたち①</td> <td>10. どうすると原子や分子がみえるのか? ①</td> </tr> <tr> <td>3. 物質のなりたち②</td> <td>11. どうすると原子や分子がみえるのか? ②</td> </tr> <tr> <td>4. 化学反応とはどのような変化か</td> <td>12. どうすると原子や分子がみえるのか? ③</td> </tr> <tr> <td>5. 化学反応はどうして起こるのか</td> <td>13. どうすると原子や分子がみえるのか? ④</td> </tr> <tr> <td>6. 酸と塩基</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 酸化と還元</td> <td>15. レポート提出</td> </tr> <tr> <td>8. 光と物質① 光とは?</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートの成績に講義への参加度を加味して評価する</p> <p>【履修上の注意】 高校までの化学を履修している必要はない</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 化学（入門編）－身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ 化学同人発行 定価 2,000 円</p> <p>※備考 事情により、授業内容の変更もあります</p>						1. ガイダンス	9. 光と物質② 色の化学	2. 物質のなりたち①	10. どうすると原子や分子がみえるのか? ①	3. 物質のなりたち②	11. どうすると原子や分子がみえるのか? ②	4. 化学反応とはどのような変化か	12. どうすると原子や分子がみえるのか? ③	5. 化学反応はどうして起こるのか	13. どうすると原子や分子がみえるのか? ④	6. 酸と塩基	14. まとめ	7. 酸化と還元	15. レポート提出	8. 光と物質① 光とは?	
1. ガイダンス	9. 光と物質② 色の化学																				
2. 物質のなりたち①	10. どうすると原子や分子がみえるのか? ①																				
3. 物質のなりたち②	11. どうすると原子や分子がみえるのか? ②																				
4. 化学反応とはどのような変化か	12. どうすると原子や分子がみえるのか? ③																				
5. 化学反応はどうして起こるのか	13. どうすると原子や分子がみえるのか? ④																				
6. 酸と塩基	14. まとめ																				
7. 酸化と還元	15. レポート提出																				
8. 光と物質① 光とは?																					

教科 No.	2207	授業科目	現代生物学 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○徳岡駒子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 生物の形と機能・系統などの知識を得ることで、身の周りの生物に関する基本的な情報を自ら引き出し、活用できるようにする。さらに、生物の様々な生態と適応・進化について考えてみることで、生物多様性について理解を深めることを目標とする。</p> <p>【授業概要】 身近な植物やきのこを教材として、基本的な形と機能および生態などについて解説する。さらに、適応と進化、種（しゅ）の概念および生物の多様性について述べる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 植物の生態3 乾燥に適応した植物</td> </tr> <tr> <td>2. “生き物”とは？</td> <td>10. 植物の生態4 種子の散布と形</td> </tr> <tr> <td>3. 花の形と機能1 身近な花の形と系統</td> <td>11. きのこの形と機能1 きのことは？</td> </tr> <tr> <td>4. 花の形と機能2 被子植物の形と適応</td> <td>12. きのこの形と機能2 きのこの生存戦略</td> </tr> <tr> <td>5. 花の形と機能3 花粉のゆくえ</td> <td>13. 生物多様性1 適応と進化</td> </tr> <tr> <td>6. 構内植物観察</td> <td>14. 生物多様性2 種の多様性</td> </tr> <tr> <td>7. 植物の生態1 花の色と生存戦略</td> <td>15. 生物多様性3 生態系の多様性</td> </tr> <tr> <td>8. 植物の生態2 裸子植物・シダの形から進化を考える</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 レポートの点数に出席点を加味します。レポートは講義内容に合わせて、生物の形や機能・生態に関するものを課題とします。レポートの採点は、①課題の理解度、②生物学の解説としての到達度、を中心に評価します。</p> <p>【履修上の注意】 高校までに生物を履修している必要はないが、学習意欲を持って授業に望むこと。講義内容の理解を助けるために、植物やきのこ・昆虫の実物標本を提示・回覧することがある。</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 必要に応じて適宜授業中に指示する。観察用ルーペがあるとよい（安価なものでも可）。</p> <p>※備考 毎回、簡単なアンケートをとります。前半と後半に分けて2回のレポート課題を出します。</p>						1. ガイダンス	9. 植物の生態3 乾燥に適応した植物	2. “生き物”とは？	10. 植物の生態4 種子の散布と形	3. 花の形と機能1 身近な花の形と系統	11. きのこの形と機能1 きのことは？	4. 花の形と機能2 被子植物の形と適応	12. きのこの形と機能2 きのこの生存戦略	5. 花の形と機能3 花粉のゆくえ	13. 生物多様性1 適応と進化	6. 構内植物観察	14. 生物多様性2 種の多様性	7. 植物の生態1 花の色と生存戦略	15. 生物多様性3 生態系の多様性	8. 植物の生態2 裸子植物・シダの形から進化を考える	
1. ガイダンス	9. 植物の生態3 乾燥に適応した植物																				
2. “生き物”とは？	10. 植物の生態4 種子の散布と形																				
3. 花の形と機能1 身近な花の形と系統	11. きのこの形と機能1 きのことは？																				
4. 花の形と機能2 被子植物の形と適応	12. きのこの形と機能2 きのこの生存戦略																				
5. 花の形と機能3 花粉のゆくえ	13. 生物多様性1 適応と進化																				
6. 構内植物観察	14. 生物多様性2 種の多様性																				
7. 植物の生態1 花の色と生存戦略	15. 生物多様性3 生態系の多様性																				
8. 植物の生態2 裸子植物・シダの形から進化を考える																					

教科 No.	2208	授業科目	現代生物学 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○徳岡駒子			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 身近な自然環境を構成する生物の特徴や生態について、知識を得る。さらに、人間の活動がその自然環境に与えてきた影響について知ることで、自然との付き合い方をより深く学び、考えようとする姿勢を養うことを目標とする。</p> <p>【授業概要】 里山や水辺を構成する生物種や話題に上がる生き物が、どのような生態的特徴を有し、また人間の活動とどのように影響しあっているかについて、生物学的な観点から解説する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 外来生物1 在来種と外来種の違い</td> </tr> <tr> <td>2. 里山1 里山の生き物</td> <td>10. 外来生物2 外来種問題とは何か</td> </tr> <tr> <td>3. 里山2 人と生物の相互作用</td> <td>11. 外来生物3 生態系と種のかく乱</td> </tr> <tr> <td>4. 里山3 里山の変遷</td> <td>12. 野生種と栽培種1 身近な栽培種の起源</td> </tr> <tr> <td>5. 構内自然観察</td> <td>13. 野生種と栽培種2 遺伝子組換え作物</td> </tr> <tr> <td>6. 琵琶湖1 水辺の生き物</td> <td>14. 生物の多様性1 種の多様性</td> </tr> <tr> <td>7. 琵琶湖2 人の活動が水生生物に与える影響</td> <td>15. 生物の多様性2 生態系の多様性</td> </tr> <tr> <td>8. 琵琶湖3 水辺の変遷</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 レポートの点数に出席点を加味します。レポートの課題は、講義内容に合わせたテーマを出します。レポートの採点は、①課題の理解度、②生物学の解説としての到達度、を中心に評価します。</p> <p>【履修上の注意】 高校までに生物を履修している必要はないが、学習意欲を持って授業に望むこと。</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 必要に応じて適宜授業中に指示する。</p> <p>※備考 毎回、簡単なアンケートをとります。前半と後半に分けて2回のレポート課題を出します。</p>						1. ガイダンス	9. 外来生物1 在来種と外来種の違い	2. 里山1 里山の生き物	10. 外来生物2 外来種問題とは何か	3. 里山2 人と生物の相互作用	11. 外来生物3 生態系と種のかく乱	4. 里山3 里山の変遷	12. 野生種と栽培種1 身近な栽培種の起源	5. 構内自然観察	13. 野生種と栽培種2 遺伝子組換え作物	6. 琵琶湖1 水辺の生き物	14. 生物の多様性1 種の多様性	7. 琵琶湖2 人の活動が水生生物に与える影響	15. 生物の多様性2 生態系の多様性	8. 琵琶湖3 水辺の変遷	
1. ガイダンス	9. 外来生物1 在来種と外来種の違い																				
2. 里山1 里山の生き物	10. 外来生物2 外来種問題とは何か																				
3. 里山2 人と生物の相互作用	11. 外来生物3 生態系と種のかく乱																				
4. 里山3 里山の変遷	12. 野生種と栽培種1 身近な栽培種の起源																				
5. 構内自然観察	13. 野生種と栽培種2 遺伝子組換え作物																				
6. 琵琶湖1 水辺の生き物	14. 生物の多様性1 種の多様性																				
7. 琵琶湖2 人の活動が水生生物に与える影響	15. 生物の多様性2 生態系の多様性																				
8. 琵琶湖3 水辺の変遷																					

教科 No.	2209	授業科目	造形心理学 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	高橋成子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 芸術活動の基盤となる感覚・知覚過程について、心理学的な知識を得ることによって、我々の感知することのできる世界について理解を深めることを目的とする。</p> <p>【授業概要】 感覚・知覚過程の心理学的な事実を概論する。 感覚・知覚系の構造と感覚・知覚の形成過程、そしてそれらと知覚体験との関係について論じる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 感覚知覚の基本的特性</td> </tr> <tr> <td>2. 感覚様相</td> <td>10. 感覚知覚機能の形成</td> </tr> <tr> <td>3. 感覚・知覚系の構造</td> <td>11. 感覚知覚機能の形成</td> </tr> <tr> <td>4. 感覚・知覚系の構造</td> <td>12. 情動・記憶と知覚</td> </tr> <tr> <td>5. 感覚・知覚系の構造</td> <td>13. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 脳の機能の局在</td> <td>14. 質問</td> </tr> <tr> <td>7. 感覚知覚の基本的特性</td> <td>15. レポート提出</td> </tr> <tr> <td>8. 感覚知覚の基本的特性</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートで評価する。</p>						1. ガイダンス	9. 感覚知覚の基本的特性	2. 感覚様相	10. 感覚知覚機能の形成	3. 感覚・知覚系の構造	11. 感覚知覚機能の形成	4. 感覚・知覚系の構造	12. 情動・記憶と知覚	5. 感覚・知覚系の構造	13. まとめ	6. 脳の機能の局在	14. 質問	7. 感覚知覚の基本的特性	15. レポート提出	8. 感覚知覚の基本的特性	
1. ガイダンス	9. 感覚知覚の基本的特性																				
2. 感覚様相	10. 感覚知覚機能の形成																				
3. 感覚・知覚系の構造	11. 感覚知覚機能の形成																				
4. 感覚・知覚系の構造	12. 情動・記憶と知覚																				
5. 感覚・知覚系の構造	13. まとめ																				
6. 脳の機能の局在	14. 質問																				
7. 感覚知覚の基本的特性	15. レポート提出																				
8. 感覚知覚の基本的特性																					

教科 No.	2210	授業科目	造形心理学 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	高橋成子			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 「見る」または「見える」という事についての心理学的事実を知り、視覚芸術の拠って立つ視覚過程について理解することによって、新たな表現の可能性を考えるきっかけとすることを目的とする。</p> <p>【授業概要】 人の視知覚の諸特性について、心理学的な研究により明らかにされてきた知見を論じる。併せて、それらが、視覚芸術における表現のあり方にどのように結びつくのかについて論じる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 空間概念、視空間の表現</td> </tr> <tr> <td>2. 視空間の心理学的特徴</td> <td>10. 形の知覚</td> </tr> <tr> <td>3. 視空間の心理学的特徴</td> <td>11. 色の知覚と色彩論</td> </tr> <tr> <td>4. 立体視、奥行き知覚</td> <td>12. 色の知覚</td> </tr> <tr> <td>5. 立体視、奥行き知覚</td> <td>13. まとめ</td> </tr> <tr> <td>6. 立体視、奥行き知覚</td> <td>14. 質問</td> </tr> <tr> <td>7. 知覚的恒常性</td> <td>15. レポート提出</td> </tr> <tr> <td>8. 空間概念、視空間の表現</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートで評価する。</p>						1. ガイダンス	9. 空間概念、視空間の表現	2. 視空間の心理学的特徴	10. 形の知覚	3. 視空間の心理学的特徴	11. 色の知覚と色彩論	4. 立体視、奥行き知覚	12. 色の知覚	5. 立体視、奥行き知覚	13. まとめ	6. 立体視、奥行き知覚	14. 質問	7. 知覚的恒常性	15. レポート提出	8. 空間概念、視空間の表現	
1. ガイダンス	9. 空間概念、視空間の表現																				
2. 視空間の心理学的特徴	10. 形の知覚																				
3. 視空間の心理学的特徴	11. 色の知覚と色彩論																				
4. 立体視、奥行き知覚	12. 色の知覚																				
5. 立体視、奥行き知覚	13. まとめ																				
6. 立体視、奥行き知覚	14. 質問																				
7. 知覚的恒常性	15. レポート提出																				
8. 空間概念、視空間の表現																					

教科 No.	2211	授業科目	情報科学 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	藤原隆男			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 コンピュータと周辺機器のしくみ、ソフトウェアの基本操作など、コンピュータを使うための知識を身につけることを目標とする。また、ファイル操作や簡単な言語についても学ぶ。</p> <p>【授業概要】 ハードウェア・OS・ソフトウェアなど、コンピュータを使うために必要な知識について講義する。講義と実演を主とし、実習は行わない。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. コンピュータの歴史</td> <td>9. アプリケーションの操作－編集メニュー</td> </tr> <tr> <td>2. コンピュータのハードウェア</td> <td>10. アプリケーションソフトの分類</td> </tr> <tr> <td>3. 周辺機器の知識</td> <td>11. 主要なアプリケーションの知識</td> </tr> <tr> <td>4. OSの種類と役割</td> <td>12. ファイルの形式と拡張子</td> </tr> <tr> <td>5. Windows, Mac のデスクトップ</td> <td>13. ファイルの構造とファイル操作</td> </tr> <tr> <td>6. ウィンドウの操作</td> <td>14. フォルダの階層構造とパス</td> </tr> <tr> <td>7. アプリケーションの起動と終了</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. アプリケーションの操作－ファイルメニュー</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末試験の成績に講義への参加度を加味して評価する。</p> <p>【履修上の注意】 授業では実演しかできないので、課外で実際にコンピュータを使って復習しながら受講されたい。</p>						1. コンピュータの歴史	9. アプリケーションの操作－編集メニュー	2. コンピュータのハードウェア	10. アプリケーションソフトの分類	3. 周辺機器の知識	11. 主要なアプリケーションの知識	4. OSの種類と役割	12. ファイルの形式と拡張子	5. Windows, Mac のデスクトップ	13. ファイルの構造とファイル操作	6. ウィンドウの操作	14. フォルダの階層構造とパス	7. アプリケーションの起動と終了	15. 試験	8. アプリケーションの操作－ファイルメニュー	
1. コンピュータの歴史	9. アプリケーションの操作－編集メニュー																				
2. コンピュータのハードウェア	10. アプリケーションソフトの分類																				
3. 周辺機器の知識	11. 主要なアプリケーションの知識																				
4. OSの種類と役割	12. ファイルの形式と拡張子																				
5. Windows, Mac のデスクトップ	13. ファイルの構造とファイル操作																				
6. ウィンドウの操作	14. フォルダの階層構造とパス																				
7. アプリケーションの起動と終了	15. 試験																				
8. アプリケーションの操作－ファイルメニュー																					

教科 No.	2212	授業科目	情報科学 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	藤原隆男			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 まずネットワークを使うための知識について学ぶ。つぎに、コンピュータを製作に使うために必要な、フォント・色・画像形式・3次元CGなどの知識を身につけるようにする。</p> <p>【授業概要】 ネットワーク利用上の注意、コンピュータグラフィックスの基礎知識について講義する。3次元CGの理論についても述べる。講義と実演によって授業を進める。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. インターネットの歴史</td> <td>9. アンチエイリアシング</td> </tr> <tr> <td>2. インターネット上のサービス</td> <td>10. 画像の加工と編集</td> </tr> <tr> <td>3. ネットワークと安全対策</td> <td>11. 3次元CGの基礎</td> </tr> <tr> <td>4. フォントの知識</td> <td>12. モデリングと座標系</td> </tr> <tr> <td>5. コンピュータにおける色</td> <td>13. サーフェスモデルとソリッドモデル</td> </tr> <tr> <td>6. 色モデル</td> <td>14. シェーディングとレンダリング</td> </tr> <tr> <td>7. カラーマネージメント</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. ガンマ補正, 中間調表現</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末試験の成績に講義への参加度を加味して評価する。</p>						1. インターネットの歴史	9. アンチエイリアシング	2. インターネット上のサービス	10. 画像の加工と編集	3. ネットワークと安全対策	11. 3次元CGの基礎	4. フォントの知識	12. モデリングと座標系	5. コンピュータにおける色	13. サーフェスモデルとソリッドモデル	6. 色モデル	14. シェーディングとレンダリング	7. カラーマネージメント	15. 試験	8. ガンマ補正, 中間調表現	
1. インターネットの歴史	9. アンチエイリアシング																				
2. インターネット上のサービス	10. 画像の加工と編集																				
3. ネットワークと安全対策	11. 3次元CGの基礎																				
4. フォントの知識	12. モデリングと座標系																				
5. コンピュータにおける色	13. サーフェスモデルとソリッドモデル																				
6. 色モデル	14. シェーディングとレンダリング																				
7. カラーマネージメント	15. 試験																				
8. ガンマ補正, 中間調表現																					

教科 No.	2213	授業科目	造形数学 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	藤原隆男			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 ユークリッド幾何学から座標幾何学までの幾何学の歴史をたどることを通して、論理の進め方などの数学的な思考力を身につけ、あわせて各自の自然観を広げることが目標とする。</p> <p>【授業概要】 数学の成立と幾何学の歴史について講義する。また、将来役に立つであろう線型代数と一次変換についても簡単に述べる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 数学の歴史と数学の諸分野</td> <td>9. 楕円</td> </tr> <tr> <td>2. 古代の数学－60進法と十進法</td> <td>10. 双曲線と放物線</td> </tr> <tr> <td>3. 幾何学の歴史</td> <td>11. 円錐曲線から2次曲面へ</td> </tr> <tr> <td>4. ピタゴラスの数学</td> <td>12. さまざまな曲線</td> </tr> <tr> <td>5. 正多面体と準正多面体</td> <td>13. 最近の曲線－ベジエ曲線、スプライン</td> </tr> <tr> <td>6. ユークリッドの数学－公理と公準</td> <td>14. 線型代数－ベクトルと行列</td> </tr> <tr> <td>7. ユークリッドの数学－諸命題</td> <td>15. 一次変換とその図形的意味</td> </tr> <tr> <td>8. 円錐曲線論</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートの成績に講義への参加度を加味して評価する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 ティモシー・ガウアーズ著「1冊でわかる数学」岩波書店 1,680円</p>						1. 数学の歴史と数学の諸分野	9. 楕円	2. 古代の数学－60進法と十進法	10. 双曲線と放物線	3. 幾何学の歴史	11. 円錐曲線から2次曲面へ	4. ピタゴラスの数学	12. さまざまな曲線	5. 正多面体と準正多面体	13. 最近の曲線－ベジエ曲線、スプライン	6. ユークリッドの数学－公理と公準	14. 線型代数－ベクトルと行列	7. ユークリッドの数学－諸命題	15. 一次変換とその図形的意味	8. 円錐曲線論	
1. 数学の歴史と数学の諸分野	9. 楕円																				
2. 古代の数学－60進法と十進法	10. 双曲線と放物線																				
3. 幾何学の歴史	11. 円錐曲線から2次曲面へ																				
4. ピタゴラスの数学	12. さまざまな曲線																				
5. 正多面体と準正多面体	13. 最近の曲線－ベジエ曲線、スプライン																				
6. ユークリッドの数学－公理と公準	14. 線型代数－ベクトルと行列																				
7. ユークリッドの数学－諸命題	15. 一次変換とその図形的意味																				
8. 円錐曲線論																					

教科 No.	2214	授業科目	造形数学 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	藤原隆男			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 リーマン幾何学・トポロジー（位相幾何学）・フラクタル幾何学・カオスなどの新しい幾何学を学ぶことを通して、数学が描く世界を知ることが目標とする。</p> <p>【授業概要】 現代の数学は驚くほどアーティスティックである。 この授業では、リーマン幾何学・トポロジー・フラクタル幾何学など、19世紀以降の幾何学をとりあげて講義し、数学の世界を紹介する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ユークリッド幾何学から非ユークリッド幾何学へ</td> <td>9. 位相空間と多様体</td> </tr> <tr> <td>2. 曲線・曲面の曲率</td> <td>10. メビウスの帯とクラインの壺</td> </tr> <tr> <td>3. リーマン幾何学と曲面1－球面</td> <td>11. 射影平面</td> </tr> <tr> <td>4. リーマン幾何学と曲面2－擬球面</td> <td>12. フラクタル幾何学</td> </tr> <tr> <td>5. 曲がった3次元空間</td> <td>13. 種々のフラクタル</td> </tr> <tr> <td>6. 擬球面のクラインモデル</td> <td>14. 複素平面上のフラクタル</td> </tr> <tr> <td>7. トポロジーの世界</td> <td>15. カオスとフラクタル</td> </tr> <tr> <td>8. おもな位相空間</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートの成績に講義への参加度を加味して評価する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 ティモシー・ガウアーズ著「1冊でわかる数学」岩波書店 1,680円</p>						1. ユークリッド幾何学から非ユークリッド幾何学へ	9. 位相空間と多様体	2. 曲線・曲面の曲率	10. メビウスの帯とクラインの壺	3. リーマン幾何学と曲面1－球面	11. 射影平面	4. リーマン幾何学と曲面2－擬球面	12. フラクタル幾何学	5. 曲がった3次元空間	13. 種々のフラクタル	6. 擬球面のクラインモデル	14. 複素平面上のフラクタル	7. トポロジーの世界	15. カオスとフラクタル	8. おもな位相空間	
1. ユークリッド幾何学から非ユークリッド幾何学へ	9. 位相空間と多様体																				
2. 曲線・曲面の曲率	10. メビウスの帯とクラインの壺																				
3. リーマン幾何学と曲面1－球面	11. 射影平面																				
4. リーマン幾何学と曲面2－擬球面	12. フラクタル幾何学																				
5. 曲がった3次元空間	13. 種々のフラクタル																				
6. 擬球面のクラインモデル	14. 複素平面上のフラクタル																				
7. トポロジーの世界	15. カオスとフラクタル																				
8. おもな位相空間																					

教科 No.	2215	授業科目	現代の科学技術		単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	藤原隆男				開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																		
<p>【授業目標】 科学技術の過去・現代・未来を考察する。すなわち、科学技術が社会に対して果たしてきた役割を学ぶことを通じて、科学技術は将来どうあるべきなのか、われわれは科学技術にどう向き合うべきなのかを考える。</p> <p>【授業概要】 科学技術はテクノロジーの意味で使われることが多いが、科学（サイエンス）と工学（エンジニアリング）と技術（テクノロジー）の区別は必ずしも明確ではない。この講義では、まず前半で科学の歴史を概観し、後半で科学が社会にもたらした諸問題を論ずることで、科学技術のあり方を考えるための手がかりを与えたい。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 科学技術は科学と技術か</td> <td>9. 核の諸問題－核兵器</td> </tr> <tr> <td>2. 宇宙の起源－そもその始まり</td> <td>10. 核の諸問題－原子力発電</td> </tr> <tr> <td>3. 元素の起源－物質の誕生</td> <td>11. エネルギー問題</td> </tr> <tr> <td>4. 地球の起源－太陽系と地球の誕生</td> <td>12. 気候変動</td> </tr> <tr> <td>5. 地球の歴史－大気の変遷</td> <td>13. 宇宙開発</td> </tr> <tr> <td>6. 生物の進化－進化論と生物の分類</td> <td>14. 情報化社会</td> </tr> <tr> <td>7. 人類の進化－ホモサピエンス登場</td> <td>15. 21世紀の科学技術</td> </tr> <tr> <td>8. 20世紀の科学技術</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートの成績に講義への参加度を加味して評価する。</p>							1. 科学技術は科学と技術か	9. 核の諸問題－核兵器	2. 宇宙の起源－そもその始まり	10. 核の諸問題－原子力発電	3. 元素の起源－物質の誕生	11. エネルギー問題	4. 地球の起源－太陽系と地球の誕生	12. 気候変動	5. 地球の歴史－大気の変遷	13. 宇宙開発	6. 生物の進化－進化論と生物の分類	14. 情報化社会	7. 人類の進化－ホモサピエンス登場	15. 21世紀の科学技術	8. 20世紀の科学技術	
1. 科学技術は科学と技術か	9. 核の諸問題－核兵器																					
2. 宇宙の起源－そもその始まり	10. 核の諸問題－原子力発電																					
3. 元素の起源－物質の誕生	11. エネルギー問題																					
4. 地球の起源－太陽系と地球の誕生	12. 気候変動																					
5. 地球の歴史－大気の変遷	13. 宇宙開発																					
6. 生物の進化－進化論と生物の分類	14. 情報化社会																					
7. 人類の進化－ホモサピエンス登場	15. 21世紀の科学技術																					
8. 20世紀の科学技術																						

教科 No.	2216	授業科目	実験心理学 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	高橋成子			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 人間の行動を理解する方法として心理学がどのようなアプローチをしているのかを理解する。 社会的存在としての人間が心理学的にはどのように捉えられるのか理解することを目的とする</p> <p>【授業概要】 心理学の諸領域の中から、実験社会心理学が扱っている内容について、いくつかの概念に絞って、実証的な研究の内容について概説する</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td><td style="width: 50%;">9. "</td></tr> <tr><td>2. 備考3の記載に従う</td><td>10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. まとめ</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. 質問</td></tr> <tr><td>7. "</td><td>15. レポート提出</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートで評価する。</p> <p>1. 全体として2～3つの大きなテーマを設定して講義する。 2. 扱うテーマについては、第1回のガイダンス時に説明する。 3. 各回は、基礎的概念の説明、仮説・理論の概説、それらを実証した実験の内容と結果の説明、考察で構成される。</p>						1. ガイダンス	9. "	2. 備考3の記載に従う	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. まとめ	6. "	14. 質問	7. "	15. レポート提出	8. "	
1. ガイダンス	9. "																				
2. 備考3の記載に従う	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. まとめ																				
6. "	14. 質問																				
7. "	15. レポート提出																				
8. "																					

教科 No.	2217	授業科目	実験心理学 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	高橋成子			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 人間の行動を理解する方法として心理学がどのようなアプローチをしているのかを、心理学の具体的な実験事実を知ることによって理解することを目的とする。</p> <p>【授業概要】 心理学の諸領域の中から、実験社会心理学が扱っている内容について、いくつかの概念に絞って、実証的な研究の内容について概説する</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">1. ガイダンス</td><td style="width: 50%;">9. "</td></tr> <tr><td>2. 備考3の記載に従う</td><td>10. "</td></tr> <tr><td>3. "</td><td>11. "</td></tr> <tr><td>4. "</td><td>12. "</td></tr> <tr><td>5. "</td><td>13. まとめ</td></tr> <tr><td>6. "</td><td>14. 質問</td></tr> <tr><td>7. "</td><td>15. レポート提出</td></tr> <tr><td>8. "</td><td></td></tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートで評価する。</p> <p>1. 全体として2～3つの大きなテーマを設定して講義する。 2. 扱うテーマについては、第1回のガイダンス時に説明する。 3. 各回は、基礎的概念の説明、仮説・理論の概説、それらを実証した実験の内容と結果の説明、考察で構成される。</p>						1. ガイダンス	9. "	2. 備考3の記載に従う	10. "	3. "	11. "	4. "	12. "	5. "	13. まとめ	6. "	14. 質問	7. "	15. レポート提出	8. "	
1. ガイダンス	9. "																				
2. 備考3の記載に従う	10. "																				
3. "	11. "																				
4. "	12. "																				
5. "	13. まとめ																				
6. "	14. 質問																				
7. "	15. レポート提出																				
8. "																					

教科 No.	2218	授業科目	図学 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○筑波幸一郎			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 美術・デザインにおいて視覚や構想によって生じた形象を描写することは必要不可欠な技能である。図象幾何学の基本を通して、形象をより適切に描写する技術を、知識として習得したい。</p> <p>【授業概要】 平面図学と立体図学について概観し、単なる図形の作図ではなく、知的にものを見る目、正しく図形を描く手、形に対する感性の向上を目的に、形象を平面（紙面）上に表すための図法を学ぶ。 製図法およびコンピュータによる作図法についてはふれない。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 図学とは何か（意義と目的）</td> <td>9. 芸術と図学の現状</td> </tr> <tr> <td>2. 図学の作図作法と製図との違い</td> <td>10. [立体] 投影法について概説</td> </tr> <tr> <td>3. [平面] 直線</td> <td>11. [立体] 点・直線・平面</td> </tr> <tr> <td>4. [平面] 円弧・円周</td> <td>12. [立体] 平面と直線・2平面</td> </tr> <tr> <td>5. [平面] 正n角形</td> <td>13. [立体] 平行・直交</td> </tr> <tr> <td>6. [平面] 放物線</td> <td>14. [立体] 回転</td> </tr> <tr> <td>7. [平面] 楕円・双曲線</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. [平面] 渦巻線・転跡線</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席状況および試験の評点により総合的に評価する。 試験は前期定期試験期間に、作図課題を複数問課して、基本的な理解力を問う。</p> <p>【履修上の注意】 教職免許取得希望者は必ず履修要項を参照すること。</p> <p>【教科書】 授業毎に授業内容のテキストを配布する（授業でのみ配布、欠席者には原則配布しない）</p>						1. 図学とは何か（意義と目的）	9. 芸術と図学の現状	2. 図学の作図作法と製図との違い	10. [立体] 投影法について概説	3. [平面] 直線	11. [立体] 点・直線・平面	4. [平面] 円弧・円周	12. [立体] 平面と直線・2平面	5. [平面] 正n角形	13. [立体] 平行・直交	6. [平面] 放物線	14. [立体] 回転	7. [平面] 楕円・双曲線	15. まとめ	8. [平面] 渦巻線・転跡線	
1. 図学とは何か（意義と目的）	9. 芸術と図学の現状																				
2. 図学の作図作法と製図との違い	10. [立体] 投影法について概説																				
3. [平面] 直線	11. [立体] 点・直線・平面																				
4. [平面] 円弧・円周	12. [立体] 平面と直線・2平面																				
5. [平面] 正n角形	13. [立体] 平行・直交																				
6. [平面] 放物線	14. [立体] 回転																				
7. [平面] 楕円・双曲線	15. まとめ																				
8. [平面] 渦巻線・転跡線																					

教科 No.	2219	授業科目	図学 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○筑波幸一郎			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 物の形をより定性的に表すために、各種の「投象の方法」を知り、美術・デザイン分野での“個人的技能を軸とした描写”との差違を見極める。またそれらの「方法論」を付加活用することで表現の幅を広げたい。</p> <p>【授業概要】 「図学 1」に続いて各種の投象法を学び、“芸大生にとっての図学の位置づけと意義”を探る。 製図法およびコンピュータによる作図法についてはふれない。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. [図学1の復習] 立体] 点, 直線, 平面, 平面と直線・2平面</td> <td>9. [単面投影] 正軸測投影</td> </tr> <tr> <td>2. [図学1の復習] 立体] 平行・直交, 回転</td> <td>10. [単面投影] 斜軸測投影</td> </tr> <tr> <td>3. 投影について</td> <td>11. [単面投影] 透視投影1</td> </tr> <tr> <td>4. [立体の正投影] 立体</td> <td>12. [単面投影] 透視投影2</td> </tr> <tr> <td>5. [立体の正投影] 切断</td> <td>13. [単面投影] 透視投影3</td> </tr> <tr> <td>6. [立体の正投影] 相貫</td> <td>14. [単面投影] 透視投影4</td> </tr> <tr> <td>7. [立体の正投影] 展開</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. [立体の正投影] 陰影</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席状況および試験の評点により総合的に評価する。 試験は後期定期試験期間に、作図課題を複数問課して、基本的な理解力を問う。</p> <p>【履修上の注意】 本講は「図学 1」の単位を修得した、または同等の知識をもった学生を対象とする。 教職免許取得希望者は必ず履修要項を参照すること。</p> <p>【教科書】 授業毎に授業内容のテキストを配布する（授業でのみ配布、欠席者には原則配布しない）</p>						1. [図学1の復習] 立体] 点, 直線, 平面, 平面と直線・2平面	9. [単面投影] 正軸測投影	2. [図学1の復習] 立体] 平行・直交, 回転	10. [単面投影] 斜軸測投影	3. 投影について	11. [単面投影] 透視投影1	4. [立体の正投影] 立体	12. [単面投影] 透視投影2	5. [立体の正投影] 切断	13. [単面投影] 透視投影3	6. [立体の正投影] 相貫	14. [単面投影] 透視投影4	7. [立体の正投影] 展開	15. 総括	8. [立体の正投影] 陰影	
1. [図学1の復習] 立体] 点, 直線, 平面, 平面と直線・2平面	9. [単面投影] 正軸測投影																				
2. [図学1の復習] 立体] 平行・直交, 回転	10. [単面投影] 斜軸測投影																				
3. 投影について	11. [単面投影] 透視投影1																				
4. [立体の正投影] 立体	12. [単面投影] 透視投影2																				
5. [立体の正投影] 切断	13. [単面投影] 透視投影3																				
6. [立体の正投影] 相貫	14. [単面投影] 透視投影4																				
7. [立体の正投影] 展開	15. 総括																				
8. [立体の正投影] 陰影																					

教科 No.	2220	授業科目	材料の科学	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	高林弘実			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 造形作品に用いられる材料の特性について科学的な視座から理解を深める。</p> <p>【授業概要】 材料の性質を充分活かした作品を創りあげるためには、材料がどのようにしてその機能や特性をもっているのかを理解することが大切である。本講義では、材料科学の基礎、および造形作品に用いられる材料について自然科学的な視座から講義をする。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 材料各論② 金属</td> </tr> <tr> <td>2. 材料の歴史</td> <td>10. 材料各論③ セラミック</td> </tr> <tr> <td>3. 物質と材料 化学結合について</td> <td>11. 材料各論④ ガラス</td> </tr> <tr> <td>4. 材料の力学的性質</td> <td>12. 材料各論⑤ 高分子材料</td> </tr> <tr> <td>5. 材料の熱的性質</td> <td>13. 材料各論⑥ 色材</td> </tr> <tr> <td>6. 材料の色と光学的性質</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 材料の電氣的・磁氣的性質</td> <td>15. レポート提出</td> </tr> <tr> <td>8. 材料各論① 岩石</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートの成績に講義への参加度を加味して評価する。 ※備考 事情により、授業内容の変更もあります。</p>						1. ガイダンス	9. 材料各論② 金属	2. 材料の歴史	10. 材料各論③ セラミック	3. 物質と材料 化学結合について	11. 材料各論④ ガラス	4. 材料の力学的性質	12. 材料各論⑤ 高分子材料	5. 材料の熱的性質	13. 材料各論⑥ 色材	6. 材料の色と光学的性質	14. まとめ	7. 材料の電氣的・磁氣的性質	15. レポート提出	8. 材料各論① 岩石	
1. ガイダンス	9. 材料各論② 金属																				
2. 材料の歴史	10. 材料各論③ セラミック																				
3. 物質と材料 化学結合について	11. 材料各論④ ガラス																				
4. 材料の力学的性質	12. 材料各論⑤ 高分子材料																				
5. 材料の熱的性質	13. 材料各論⑥ 色材																				
6. 材料の色と光学的性質	14. まとめ																				
7. 材料の電氣的・磁氣的性質	15. レポート提出																				
8. 材料各論① 岩石																					

教科 No.	2221	授業科目	材料学 1(塗料・絵具)	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○亀川學			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 色彩材料の中に絵具及び塗料等があるが、それらの構成成分である顔料・樹脂・溶剤等の知識と各種色彩材料の特長を知る事が必要である。本授業では基本的事項の理解を深める事を目標とする。</p> <p>【授業概要】 絵具と塗料の基礎的な概要を述べる。絵具では顔料・各種絵具の特長・作品に発生する災害と対策を解説する。塗料では樹脂・塗料・塗装概論及び各種塗料の特長と用途を解説する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 絵具概論と色彩材料の変遷</td> <td>9. 塗装概論 (塗装の目的・塗装方法・塗装の設計)</td> </tr> <tr> <td>2. 色彩材料の分類と組成、顔料の分類と性質</td> <td>10. 塗料の原料 (樹脂)</td> </tr> <tr> <td>3. 顔料各論 (体質顔料・無機顔料)</td> <td>11. 塗料の原料 (溶剤), 塗料各論 (各種塗料の特長と用途)</td> </tr> <tr> <td>4. 顔料各論 (有機顔料・特殊顔料・日本画用顔料)</td> <td>12. 塗料各論 (各種塗料の特長と用途)</td> </tr> <tr> <td>5. 絵具各論 (水彩絵具類・油絵具と画用液類)</td> <td>13. 塗料各論 (各種塗料の特長と用途)</td> </tr> <tr> <td>6. 絵具各論 (アクリルカラーとメジウム類・その他絵具類)</td> <td>14. 塗料の設計と使い方。材料の有害性</td> </tr> <tr> <td>7. 絵画作品に発生する災害と対策</td> <td>15. 筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 塗料概論 (塗料の構成・塗料の歴史と展望)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 筆記試験と出席率により総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 資料を配布する。</p> <p>【参考書等】 授業中に紹介する。</p>						1. 絵具概論と色彩材料の変遷	9. 塗装概論 (塗装の目的・塗装方法・塗装の設計)	2. 色彩材料の分類と組成、顔料の分類と性質	10. 塗料の原料 (樹脂)	3. 顔料各論 (体質顔料・無機顔料)	11. 塗料の原料 (溶剤), 塗料各論 (各種塗料の特長と用途)	4. 顔料各論 (有機顔料・特殊顔料・日本画用顔料)	12. 塗料各論 (各種塗料の特長と用途)	5. 絵具各論 (水彩絵具類・油絵具と画用液類)	13. 塗料各論 (各種塗料の特長と用途)	6. 絵具各論 (アクリルカラーとメジウム類・その他絵具類)	14. 塗料の設計と使い方。材料の有害性	7. 絵画作品に発生する災害と対策	15. 筆記試験	8. 塗料概論 (塗料の構成・塗料の歴史と展望)	
1. 絵具概論と色彩材料の変遷	9. 塗装概論 (塗装の目的・塗装方法・塗装の設計)																				
2. 色彩材料の分類と組成、顔料の分類と性質	10. 塗料の原料 (樹脂)																				
3. 顔料各論 (体質顔料・無機顔料)	11. 塗料の原料 (溶剤), 塗料各論 (各種塗料の特長と用途)																				
4. 顔料各論 (有機顔料・特殊顔料・日本画用顔料)	12. 塗料各論 (各種塗料の特長と用途)																				
5. 絵具各論 (水彩絵具類・油絵具と画用液類)	13. 塗料各論 (各種塗料の特長と用途)																				
6. 絵具各論 (アクリルカラーとメジウム類・その他絵具類)	14. 塗料の設計と使い方。材料の有害性																				
7. 絵画作品に発生する災害と対策	15. 筆記試験																				
8. 塗料概論 (塗料の構成・塗料の歴史と展望)																					

教科 No.	2222	授業科目	材料学 2(プラスチック)	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	高林弘実			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 「プラスチック」とはどのような材料であり、社会の中でどのように利用されているのかを知ることが目標とする。</p> <p>【授業概要】 プラスチックは、造形材料のみならず生活や社会を支えている材料としても大きな割合を占めており、人間がこれまで利用してきた材料の中では新しいものでありながら、現在最も利用量の多い材料のひとつである。この講義では、多様な機能・性質をもつ「プラスチック」がどのような材料であるかを紹介する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. 私たちの暮らしとプラスチック (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 「プラスチック」とはなにか?</td> <td>10. 産業で活躍するプラスチック (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 「プラスチック」ができるまで</td> <td>11. アートの世界で利用するプラスチック (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 「プラスチック」の種類と分類</td> <td>12. アートの世界で利用するプラスチック (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 伝統材料とプラスチック</td> <td>13. プラスチックのこれから</td> </tr> <tr> <td>6. 「プラスチック」の性質</td> <td>14. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 「プラスチック」の成形法</td> <td>15. レポート提出</td> </tr> <tr> <td>8. 私たちの暮らしとプラスチック (1)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートの成績に講義への参加度を加味して評価する</p> <p>【履修上の注意】 授業内容は予定です。変更のある場合は、第1回目の授業で説明します。</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 『よくわかる最新プラスチックの仕組みとはたらき』 桑嶋幹・木原伸浩・工藤保広著 秀和システム 1,400円</p>						1. ガイダンス	9. 私たちの暮らしとプラスチック (2)	2. 「プラスチック」とはなにか?	10. 産業で活躍するプラスチック (1)	3. 「プラスチック」ができるまで	11. アートの世界で利用するプラスチック (1)	4. 「プラスチック」の種類と分類	12. アートの世界で利用するプラスチック (2)	5. 伝統材料とプラスチック	13. プラスチックのこれから	6. 「プラスチック」の性質	14. まとめ	7. 「プラスチック」の成形法	15. レポート提出	8. 私たちの暮らしとプラスチック (1)	
1. ガイダンス	9. 私たちの暮らしとプラスチック (2)																				
2. 「プラスチック」とはなにか?	10. 産業で活躍するプラスチック (1)																				
3. 「プラスチック」ができるまで	11. アートの世界で利用するプラスチック (1)																				
4. 「プラスチック」の種類と分類	12. アートの世界で利用するプラスチック (2)																				
5. 伝統材料とプラスチック	13. プラスチックのこれから																				
6. 「プラスチック」の性質	14. まとめ																				
7. 「プラスチック」の成形法	15. レポート提出																				
8. 私たちの暮らしとプラスチック (1)																					

教科 No.	2223	授業科目	材料学 3(金属)	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	○西内滋典			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<p>今年度休講</p>					

教科 No.	2224	授業科目	材料学 4(紙)	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○湊和也			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 紙の製造法の発見からわが国への伝播、独自の製法への発展の歴史、和紙を用いた日本文化の発達、さらに現在の紙に対する科学的な知識を学び、美術・工芸への展開に際して必要な知識を修得する。</p> <p>【授業概要】 美術工芸の領域において、紙の用途は工芸品の製作材料、画材、写真の印画紙など多岐にわたる。本講義では、紙の発明、伝播、製造法の発展、紙と文化の関わり、製紙の科学について、和紙を中心に取り上げる。また、洋紙を含む、最近の高機能紙や資源問題など、紙が直面する諸般の状況についても講義する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 本講義の概要を説明し、紙の定義を解説する</td> <td>9. 暮らしの中での和紙の利用と合目的性について講述する</td> </tr> <tr> <td>2. 紙の発見の経緯および伝播の歴史について解説する</td> <td>10. 現在のパルプ製造と抄紙の科学について概説する</td> </tr> <tr> <td>3. 紙の伝来から和紙の誕生にいたる歴史を概観する</td> <td>11. 和紙と洋紙の、材料・製法・特性の比較などについて解説する</td> </tr> <tr> <td>4. 樹皮から和紙製造への抄紙に関する基礎的な科学を講義する</td> <td>12. 現代の紙の加工技術について解説する</td> </tr> <tr> <td>5. 和紙の原料植物と添料・顔料などについて解説する</td> <td>13. 現代生活における和紙と洋紙の用途を考える</td> </tr> <tr> <td>6. 紙と日本文化（古典文学、書など）の関わりを取り扱う</td> <td>14. 現代芸術の中での紙の利用について考える</td> </tr> <tr> <td>7. 和風建築や伝統文化における和紙の利用に関して講義する</td> <td>15. 資源問題とリサイクルを取り上げて解説する</td> </tr> <tr> <td>8. 和紙の産地とその特色を紹介する</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 論文形式の試験を行なう。また、出席率を勘案する。</p> <p>【履修上の注意】 特になし</p> <p>【教科書】 使用しない（プリントを配布する）。</p> <p>【参考書等】 特になし</p> <p>※備考 次年度休講予定</p>						1. 本講義の概要を説明し、紙の定義を解説する	9. 暮らしの中での和紙の利用と合目的性について講述する	2. 紙の発見の経緯および伝播の歴史について解説する	10. 現在のパルプ製造と抄紙の科学について概説する	3. 紙の伝来から和紙の誕生にいたる歴史を概観する	11. 和紙と洋紙の、材料・製法・特性の比較などについて解説する	4. 樹皮から和紙製造への抄紙に関する基礎的な科学を講義する	12. 現代の紙の加工技術について解説する	5. 和紙の原料植物と添料・顔料などについて解説する	13. 現代生活における和紙と洋紙の用途を考える	6. 紙と日本文化（古典文学、書など）の関わりを取り扱う	14. 現代芸術の中での紙の利用について考える	7. 和風建築や伝統文化における和紙の利用に関して講義する	15. 資源問題とリサイクルを取り上げて解説する	8. 和紙の産地とその特色を紹介する	
1. 本講義の概要を説明し、紙の定義を解説する	9. 暮らしの中での和紙の利用と合目的性について講述する																				
2. 紙の発見の経緯および伝播の歴史について解説する	10. 現在のパルプ製造と抄紙の科学について概説する																				
3. 紙の伝来から和紙の誕生にいたる歴史を概観する	11. 和紙と洋紙の、材料・製法・特性の比較などについて解説する																				
4. 樹皮から和紙製造への抄紙に関する基礎的な科学を講義する	12. 現代の紙の加工技術について解説する																				
5. 和紙の原料植物と添料・顔料などについて解説する	13. 現代生活における和紙と洋紙の用途を考える																				
6. 紙と日本文化（古典文学、書など）の関わりを取り扱う	14. 現代芸術の中での紙の利用について考える																				
7. 和風建築や伝統文化における和紙の利用に関して講義する	15. 資源問題とリサイクルを取り上げて解説する																				
8. 和紙の産地とその特色を紹介する																					

教科 No.	2225	授業科目	材料学 5(木材)	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	○仲村匡司			開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<h2 style="margin: 0;">今年度休講</h2>					

教科 No.	2226	授業科目	材料学 6(ガラス・新素材)	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	○中村真紀			開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上	
<h2 style="margin: 0;">今年度休講</h2>					

教科 No.	2227	授業科目	美術解剖学	単位数	週1コマ 2単位		
担当教員	○森浩子			開講学期	前期		
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上			
<p>【授業目標】 人体解剖学について学ぶ。人体の解剖学的構造の知識体系を獲得し、生命の形態に宿る機能的あるいは合理的な美を抽出し、表現活動に応用する力を養う。</p> <p>【授業概要】 古典的美術解剖学（表面解剖、筋・骨・内臓）の学習を基本とする。身体の各部位の詳細な形態観察を行いながら、それらの機能について解説する。また、芸術における人体解剖学の位置づけについて、ルネッサンス期の解剖学研究を中心に講述する。</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 美術解剖学総論： 表見者にとって解剖学を学ぶということ 2. 人体の骨・皮膚についての全体論と各論を学ぶ 3. 人体の筋系についての全体論と各論を学ぶ I . 形態編 4. 人体の筋系についての全体論と各論を学ぶ II . 運動編 5. 人体の循環器・呼吸器系についての全体論と各論を学ぶ 6. 人体の消化器系についての全体論と各論を学ぶ 7. 人体の生殖系とヒトの発生についての全体論と各論を学ぶ 8. 人体の感覚器官と脳についての全体論と各論を学ぶ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 9. 比較解剖学： ヒトは他の動物種と比べて、どこがどのように同じで違うのか学ぶ（様々な動物のかたち） 10. 人体の進化の過程について学ぶ 11. 男女の身体の違いについて学ぶ 12. 西洋・東洋における解剖学研究の発展の過程と、それらの芸術における位置づけについて学ぶ 13. 現代における生命形態学について学ぶ（あらゆる生き物の形態から機能性を見出す試み） 14. 予備日 15. レポート提出 </td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートにて評価する。レポート課題については講義中に指示する。</p> <p>○ Power Point によるスライドを中心に講義を行う。</p>						<ol style="list-style-type: none"> 1. 美術解剖学総論： 表見者にとって解剖学を学ぶということ 2. 人体の骨・皮膚についての全体論と各論を学ぶ 3. 人体の筋系についての全体論と各論を学ぶ I . 形態編 4. 人体の筋系についての全体論と各論を学ぶ II . 運動編 5. 人体の循環器・呼吸器系についての全体論と各論を学ぶ 6. 人体の消化器系についての全体論と各論を学ぶ 7. 人体の生殖系とヒトの発生についての全体論と各論を学ぶ 8. 人体の感覚器官と脳についての全体論と各論を学ぶ 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 比較解剖学： ヒトは他の動物種と比べて、どこがどのように同じで違うのか学ぶ（様々な動物のかたち） 10. 人体の進化の過程について学ぶ 11. 男女の身体の違いについて学ぶ 12. 西洋・東洋における解剖学研究の発展の過程と、それらの芸術における位置づけについて学ぶ 13. 現代における生命形態学について学ぶ（あらゆる生き物の形態から機能性を見出す試み） 14. 予備日 15. レポート提出
<ol style="list-style-type: none"> 1. 美術解剖学総論： 表見者にとって解剖学を学ぶということ 2. 人体の骨・皮膚についての全体論と各論を学ぶ 3. 人体の筋系についての全体論と各論を学ぶ I . 形態編 4. 人体の筋系についての全体論と各論を学ぶ II . 運動編 5. 人体の循環器・呼吸器系についての全体論と各論を学ぶ 6. 人体の消化器系についての全体論と各論を学ぶ 7. 人体の生殖系とヒトの発生についての全体論と各論を学ぶ 8. 人体の感覚器官と脳についての全体論と各論を学ぶ 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 比較解剖学： ヒトは他の動物種と比べて、どこがどのように同じで違うのか学ぶ（様々な動物のかたち） 10. 人体の進化の過程について学ぶ 11. 男女の身体の違いについて学ぶ 12. 西洋・東洋における解剖学研究の発展の過程と、それらの芸術における位置づけについて学ぶ 13. 現代における生命形態学について学ぶ（あらゆる生き物の形態から機能性を見出す試み） 14. 予備日 15. レポート提出 						

教科 No.	2228	授業科目	製陶法 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○土谷徹			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p>【授業目標】 陶磁器は粘土鉱物で成形し、絵の具や釉薬を使い装飾する。粘土・成形・装飾についての理解を深める。</p> <p>【授業概要】 陶磁器全般について出来るだけ平易に解説する。時にはビデオや現物を見ながらの授業で、初歩からの解説に努める。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 陶磁器概論－世界の陶磁器・日本の陶磁器・京都の陶磁器</td> <td>9. 装飾 2－下絵</td> </tr> <tr> <td>2. 粘土 1－粘土の種類</td> <td>10. 装飾 3－上絵</td> </tr> <tr> <td>3. 粘土 2－粘土の構造(なぜ粘るのか?)</td> <td>11. 原料と施釉方法</td> </tr> <tr> <td>4. 粘土 3－原土からの調整</td> <td>12. 基礎釉 1－灰釉</td> </tr> <tr> <td>5. 成形 1－ひねり、たた</td> <td>13. 基礎釉 2－土石釉</td> </tr> <tr> <td>6. 成形 2－い込み、打ち込み</td> <td>14. 形成段階での失敗と対策</td> </tr> <tr> <td>7. 成形 3－ろくろ</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 装飾 1－化粧</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートの成績を 50 点満点、出席率を 50 点満点として合計得点を成績評価とする。</p>						1. 陶磁器概論－世界の陶磁器・日本の陶磁器・京都の陶磁器	9. 装飾 2－下絵	2. 粘土 1－粘土の種類	10. 装飾 3－上絵	3. 粘土 2－粘土の構造(なぜ粘るのか?)	11. 原料と施釉方法	4. 粘土 3－原土からの調整	12. 基礎釉 1－灰釉	5. 成形 1－ひねり、たた	13. 基礎釉 2－土石釉	6. 成形 2－い込み、打ち込み	14. 形成段階での失敗と対策	7. 成形 3－ろくろ	15. まとめ	8. 装飾 1－化粧	
1. 陶磁器概論－世界の陶磁器・日本の陶磁器・京都の陶磁器	9. 装飾 2－下絵																				
2. 粘土 1－粘土の種類	10. 装飾 3－上絵																				
3. 粘土 2－粘土の構造(なぜ粘るのか?)	11. 原料と施釉方法																				
4. 粘土 3－原土からの調整	12. 基礎釉 1－灰釉																				
5. 成形 1－ひねり、たた	13. 基礎釉 2－土石釉																				
6. 成形 2－い込み、打ち込み	14. 形成段階での失敗と対策																				
7. 成形 3－ろくろ	15. まとめ																				
8. 装飾 1－化粧																					

教科 No.	2229	授業科目	製陶法 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○土谷徹			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1 年次以上																	
<p>【授業目標】 陶磁器は作品を焼くというのが製作工程上最大の特徴である。焼成とそこに起こる現象についての理解を深める。</p> <p>【授業概要】 焼成と釉薬、代表的な製陶技法について出来るだけ平易に解説する。時にはビデオや現物を見ながらの授業で、少し専門的な解説も加える。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 陶磁器の分類</td> <td>9. 鉄釉 2－天目</td> </tr> <tr> <td>2. 焼成 1－窯の種類</td> <td>10. 銅釉</td> </tr> <tr> <td>3. 焼成 2－窯の焚き方</td> <td>11. 染焼</td> </tr> <tr> <td>4. 釉薬の調整 1－三角座標</td> <td>12. 低火度釉</td> </tr> <tr> <td>5. 釉薬の調整 2－ゼーゲル式</td> <td>13. 失敗と対策</td> </tr> <tr> <td>6. 発色材と顔料</td> <td>14. 曜変天目とラスタ－彩</td> </tr> <tr> <td>7. 白磁</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 鉄釉 1－青磁・黄瀬戸</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末レポートの成績を 50 点満点、出席率を 50 点満点として合計得点を成績評価とする。</p> <p>※履修上の注意 製陶法 1 を履修していることが理解を深める上で望ましい。</p>						1. 陶磁器の分類	9. 鉄釉 2－天目	2. 焼成 1－窯の種類	10. 銅釉	3. 焼成 2－窯の焚き方	11. 染焼	4. 釉薬の調整 1－三角座標	12. 低火度釉	5. 釉薬の調整 2－ゼーゲル式	13. 失敗と対策	6. 発色材と顔料	14. 曜変天目とラスタ－彩	7. 白磁	15. まとめ	8. 鉄釉 1－青磁・黄瀬戸	
1. 陶磁器の分類	9. 鉄釉 2－天目																				
2. 焼成 1－窯の種類	10. 銅釉																				
3. 焼成 2－窯の焚き方	11. 染焼																				
4. 釉薬の調整 1－三角座標	12. 低火度釉																				
5. 釉薬の調整 2－ゼーゲル式	13. 失敗と対策																				
6. 発色材と顔料	14. 曜変天目とラスタ－彩																				
7. 白磁	15. まとめ																				
8. 鉄釉 1－青磁・黄瀬戸																					

教科 No.	2230	授業科目	塗料塗装法 1	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○大藪泰			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
【授業目標】 塗料を知り、正しい塗装方法を理解する。塗料の組成・種類・適切な塗料の選択・塗装工程・塗装方法・塗料塗膜の性能とその評価方法・塗膜欠陥等を学ぶ。																					
【授業概要】 昔から使用されている天然塗料から最新の合成樹脂塗料まで、その塗料の種類や利用方法を述べる。さらに具体的な事例を提示しながら(例えば東京タワー・厳島神社大鳥居・ピアノ等)、これらがどのように塗装されているのか述べる。以上を通して、素材に適した塗料の選択や正しい塗装方法の理解を図る。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 塗料・塗装の目的, 塗料の構成</td> <td>9. 塗装機器と塗装方法(2) カーテンコーター, ロールコーター, 静電塗装, 電着塗装等</td> </tr> <tr> <td>2. 塗料の分類と乾燥機構</td> <td>10. 塗装の実際(1) 冷蔵庫, 自動車, 新幹線車両, 航空機, 東京タワー等</td> </tr> <tr> <td>3. 塗料各論(1) 溶剤揮発形・酸化重合形・熱重合形塗料・2液重合形等</td> <td>11. 塗装の実際(2) 厳島神社大鳥居, 明治時代の洋館, 漆塗り, 新しい漆塗り等</td> </tr> <tr> <td>4. 塗料各論(2) 水性塗料・粉体塗料・紫外線硬化塗料・各種天然塗料・漆等</td> <td>12. 機能性塗料導電性, 抗菌, 擦り傷防止塗料等</td> </tr> <tr> <td>5. 塗装各論(1) 木材塗装</td> <td>13. 塗料性能評価方法</td> </tr> <tr> <td>6. 塗装各論(2) 金属塗装への塗装</td> <td>14. 塗料・塗膜の欠陥, まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 塗装各論(3) プラスチック, ガラス, 皮革等への塗装</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 塗装機器と塗装方法(1) 刷け, ローラー, エアスプレー, エアレススプレー等</td> <td></td> </tr> </table>						1. 塗料・塗装の目的, 塗料の構成	9. 塗装機器と塗装方法(2) カーテンコーター, ロールコーター, 静電塗装, 電着塗装等	2. 塗料の分類と乾燥機構	10. 塗装の実際(1) 冷蔵庫, 自動車, 新幹線車両, 航空機, 東京タワー等	3. 塗料各論(1) 溶剤揮発形・酸化重合形・熱重合形塗料・2液重合形等	11. 塗装の実際(2) 厳島神社大鳥居, 明治時代の洋館, 漆塗り, 新しい漆塗り等	4. 塗料各論(2) 水性塗料・粉体塗料・紫外線硬化塗料・各種天然塗料・漆等	12. 機能性塗料導電性, 抗菌, 擦り傷防止塗料等	5. 塗装各論(1) 木材塗装	13. 塗料性能評価方法	6. 塗装各論(2) 金属塗装への塗装	14. 塗料・塗膜の欠陥, まとめ	7. 塗装各論(3) プラスチック, ガラス, 皮革等への塗装	15. 試験	8. 塗装機器と塗装方法(1) 刷け, ローラー, エアスプレー, エアレススプレー等	
1. 塗料・塗装の目的, 塗料の構成	9. 塗装機器と塗装方法(2) カーテンコーター, ロールコーター, 静電塗装, 電着塗装等																				
2. 塗料の分類と乾燥機構	10. 塗装の実際(1) 冷蔵庫, 自動車, 新幹線車両, 航空機, 東京タワー等																				
3. 塗料各論(1) 溶剤揮発形・酸化重合形・熱重合形塗料・2液重合形等	11. 塗装の実際(2) 厳島神社大鳥居, 明治時代の洋館, 漆塗り, 新しい漆塗り等																				
4. 塗料各論(2) 水性塗料・粉体塗料・紫外線硬化塗料・各種天然塗料・漆等	12. 機能性塗料導電性, 抗菌, 擦り傷防止塗料等																				
5. 塗装各論(1) 木材塗装	13. 塗料性能評価方法																				
6. 塗装各論(2) 金属塗装への塗装	14. 塗料・塗膜の欠陥, まとめ																				
7. 塗装各論(3) プラスチック, ガラス, 皮革等への塗装	15. 試験																				
8. 塗装機器と塗装方法(1) 刷け, ローラー, エアスプレー, エアレススプレー等																					
【評価方法】 出席率: 50点 筆記テスト(ノート・テキスト持込可): 50点 計100点																					
【履修上の注意】 漆工専攻の学生は2年次に履修することが望ましい。																					
【教科書】 中道敏彦・坪田実著『トコトンやさしい塗料の本』日刊工業新聞社 ¥1,470																					

教科 No.	2231	授業科目	塗料塗装法 2	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○大藪泰			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
【授業目標】 日本の伝統的な塗料である漆について学ぶ。塗料としての漆の性質や特長ばかりでなく、漆を科学的な視野から解析し、漆の新しい使い方等可能性を考える。																					
【授業概要】 伝統的な塗装材料である漆は木に傷を付けて採取する。得られた膜は優美で高級感があり、他の合成樹脂塗料では得られない特長をもつ。漆の採取方法・産地・漆の種類・精製方法等を述べ、漆を合成樹脂塗料と比較しながら漆の特長を考える。さらに最新の漆の技術を講義し、漆の可能性についても考える。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 漆とは, 日本の漆採取方法と産地</td> <td>9. 漆膜の性質(4) 漆膜の劣化</td> </tr> <tr> <td>2. 中国・ベトナム・ミャンマー・台湾・韓国の漆採取方法</td> <td>10. 漆膜の性質(5) 漆膜のかぶれ, 変色等漆膜欠陥</td> </tr> <tr> <td>3. 漆の成分・漆の構成・漆の精製方法</td> <td>11. 漆最前線(1) 漆の改良とその利用法1</td> </tr> <tr> <td>4. 漆の種類・色漆・漆の常温乾燥・焼付乾燥</td> <td>12. 漆最前線(2) 漆の改良とその利用法2</td> </tr> <tr> <td>5. 漆器産地・塗漆方法・加飾方法</td> <td>13. 漆最前線(3) 人工漆の開発と可能性</td> </tr> <tr> <td>6. 漆膜の性質(1) 漆膜の透明性・色</td> <td>14. 漆と合成樹脂塗料, まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 漆膜の性質(2) 漆膜の物性</td> <td>15. 試験</td> </tr> <tr> <td>8. 漆膜の性質(3) 漆膜の美しさ</td> <td></td> </tr> </table>						1. 漆とは, 日本の漆採取方法と産地	9. 漆膜の性質(4) 漆膜の劣化	2. 中国・ベトナム・ミャンマー・台湾・韓国の漆採取方法	10. 漆膜の性質(5) 漆膜のかぶれ, 変色等漆膜欠陥	3. 漆の成分・漆の構成・漆の精製方法	11. 漆最前線(1) 漆の改良とその利用法1	4. 漆の種類・色漆・漆の常温乾燥・焼付乾燥	12. 漆最前線(2) 漆の改良とその利用法2	5. 漆器産地・塗漆方法・加飾方法	13. 漆最前線(3) 人工漆の開発と可能性	6. 漆膜の性質(1) 漆膜の透明性・色	14. 漆と合成樹脂塗料, まとめ	7. 漆膜の性質(2) 漆膜の物性	15. 試験	8. 漆膜の性質(3) 漆膜の美しさ	
1. 漆とは, 日本の漆採取方法と産地	9. 漆膜の性質(4) 漆膜の劣化																				
2. 中国・ベトナム・ミャンマー・台湾・韓国の漆採取方法	10. 漆膜の性質(5) 漆膜のかぶれ, 変色等漆膜欠陥																				
3. 漆の成分・漆の構成・漆の精製方法	11. 漆最前線(1) 漆の改良とその利用法1																				
4. 漆の種類・色漆・漆の常温乾燥・焼付乾燥	12. 漆最前線(2) 漆の改良とその利用法2																				
5. 漆器産地・塗漆方法・加飾方法	13. 漆最前線(3) 人工漆の開発と可能性																				
6. 漆膜の性質(1) 漆膜の透明性・色	14. 漆と合成樹脂塗料, まとめ																				
7. 漆膜の性質(2) 漆膜の物性	15. 試験																				
8. 漆膜の性質(3) 漆膜の美しさ																					
【評価方法】 出席率: 50点 筆記テスト(ノート・テキスト持込可): 50点 計100点。 60点以下は不可																					
【履修上の注意】 漆工専攻の学生は2年次に履修することが望ましい。																					
【教科書】																					
【参考書等】 寺田晃 小田圭昭 大藪泰 阿佐見徹著『漆—その科学と技術—』理工出版社 ¥3,500																					

教科 No.	2232	授業科目	人間工学	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○緒方誠人			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 人は仕事や意志を伝達する手段として道具や機械を使用してきたが、コンピュータの発達と普及により、その利用範囲はますます拡大している。ヒューマンインタフェースは使う人の意志を正しく、そしてわかりやすく伝える目的を担っており、人の特性をふまえたデザインをしていくことが重要である。このため、人の感覚や知覚、思考などについて理解を深めると共に、これをデザイン等に生かしていくための手法について理解することを目標とする。</p> <p>【授業概要】 人の感覚や知覚、記憶、思考など、人間特性の基礎についてわかりやすく解説するとともに、人間特性の様々な計測法についても解説する。さらにこれらをふまえてヒューマンインタフェースデザインを行っていく上で重要な課題である、わかりやすさや使いやすさ、エラー防止対策などについて考察する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ヒューマンインタフェースとは何か？ その定義および特性について解説する。</td> <td>9. 情報行動計測および、神経系と心理機能について解説する。</td> </tr> <tr> <td>2. 人の感覚・知覚について解説する。</td> <td>10. ヒトの意識と感情について解説する。</td> </tr> <tr> <td>3. 人の記憶について解説する。</td> <td>11. 生理指標の測定法について解説する。</td> </tr> <tr> <td>4. 人の思考における推論と制御について解説する。</td> <td>12. インタラクションの要素としてのコンピュータについて解説する。</td> </tr> <tr> <td>5. アフォーダンスおよび認知システム工学について解説する。</td> <td>13. インタラクションのシステム構成について解説する。</td> </tr> <tr> <td>6. わかりやすさ、使いやすさ、ヒューマンエラーについて解説する。</td> <td>14. ヒューマンインタフェースのデザインと評価について解説する。</td> </tr> <tr> <td>7. ヒューマンモデル、エラー防止対策について解説する。</td> <td>15. 仕事や暮らしにおけるヒューマンインタフェースについて解説する。</td> </tr> <tr> <td>8. 人間・機械共存系としてのインタフェースについて解説する。</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末試験の得点及び、授業で配布するプリントの回答を評価の中心とする。出席の有無についても考慮に入れる。</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 ヒューマンインタフェース（田村 博 著 オーム社、5,775 円）</p> <p>【参考書等】 ヒューマンインタフェースの心理と生理（吉川榮和、仲谷善雄、下田宏、丹羽雄二、コロナ社、2,625 円）</p> <p>※備考 次年度休講予定</p>						1. ヒューマンインタフェースとは何か？ その定義および特性について解説する。	9. 情報行動計測および、神経系と心理機能について解説する。	2. 人の感覚・知覚について解説する。	10. ヒトの意識と感情について解説する。	3. 人の記憶について解説する。	11. 生理指標の測定法について解説する。	4. 人の思考における推論と制御について解説する。	12. インタラクションの要素としてのコンピュータについて解説する。	5. アフォーダンスおよび認知システム工学について解説する。	13. インタラクションのシステム構成について解説する。	6. わかりやすさ、使いやすさ、ヒューマンエラーについて解説する。	14. ヒューマンインタフェースのデザインと評価について解説する。	7. ヒューマンモデル、エラー防止対策について解説する。	15. 仕事や暮らしにおけるヒューマンインタフェースについて解説する。	8. 人間・機械共存系としてのインタフェースについて解説する。	
1. ヒューマンインタフェースとは何か？ その定義および特性について解説する。	9. 情報行動計測および、神経系と心理機能について解説する。																				
2. 人の感覚・知覚について解説する。	10. ヒトの意識と感情について解説する。																				
3. 人の記憶について解説する。	11. 生理指標の測定法について解説する。																				
4. 人の思考における推論と制御について解説する。	12. インタラクションの要素としてのコンピュータについて解説する。																				
5. アフォーダンスおよび認知システム工学について解説する。	13. インタラクションのシステム構成について解説する。																				
6. わかりやすさ、使いやすさ、ヒューマンエラーについて解説する。	14. ヒューマンインタフェースのデザインと評価について解説する。																				
7. ヒューマンモデル、エラー防止対策について解説する。	15. 仕事や暮らしにおけるヒューマンインタフェースについて解説する。																				
8. 人間・機械共存系としてのインタフェースについて解説する。																					

教科 No.	2233	授業科目	印刷工学	単位数	集中30時間 2単位
担当教員	○深谷守			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	3年次以上	
<h1>今年度休講</h1>					

教科 No.	2234	授業科目	メカニズム論	単位数	週1コマ 2単位
担当教員	○緒方誠人			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	3年次以上	
<h2 style="margin: 0;">今年度休講</h2>					

教科 No.	2235	授業科目	色染学	単位数	週1コマ 2単位		
担当教員	○北尾好隆			開講学期	後期		
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上			
<p>【授業目標】 天然染料を用いた複雑な染色から最近では各種の染料・助剤が開発されこれらを用いた容易で美しく堅ろうな染色が可能となってきた。本講ではこれらの技術について理解を深め、製品企画・製作に役立てることが目標。</p> <p>【授業概要】 各種染色法の原理（基礎理論）について平易に解説すると共に、染色加工の周辺事情についてもふれ、授業目標が達成される様に工夫をこらして行きたいと考えている。</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 染色加工全般について（染色前処理としての精練漂白・染色法の分類と仕上げ加工） 2. 染料概論（染料に関する各種話題について）、染料の種類と基本染法・特徴等 3. 染色の基礎（染めるという事―染色現象を正しく理解するため） 4. セルロース系繊維（木綿・麻・レーヨン等）の浸染 5. たんぱく系繊維（絹・羊毛）の浸染 6. 半合成・合成繊維（アセテート・ナイロン・ポリエステル）の浸染 7. 模様染の基礎 I（捺染概論：捺染デザイン～捺染型作製～印捺） 8. 模様染の基礎 II（捺染概論：固着～洗浄） </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. 各種繊維（木綿・絹・ポリエステル等）の捺染について 10. 特殊捺染や顔料捺染について 11. 無版（インクジェット）捺染について 12. 天然染料による染色について 13. 複合繊維（混紡・交織品）の染色・色とその管理（光源色と物体色・色の表示方法等）について 14. 伝統染色と京都市の繊維工業の現状 15. テスト及びテストを通じての復習 </td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験結果によるが出席も重視する。試験は持込み（制限なし）を可とする</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 プリントを配布する。</p> <p style="margin-left: 20px;">※備考 テキストの内容をより理解しやすいように、パワーポイントを使って授業を行う。</p>						1. 染色加工全般について（染色前処理としての精練漂白・染色法の分類と仕上げ加工） 2. 染料概論（染料に関する各種話題について）、染料の種類と基本染法・特徴等 3. 染色の基礎（染めるという事―染色現象を正しく理解するため） 4. セルロース系繊維（木綿・麻・レーヨン等）の浸染 5. たんぱく系繊維（絹・羊毛）の浸染 6. 半合成・合成繊維（アセテート・ナイロン・ポリエステル）の浸染 7. 模様染の基礎 I（捺染概論：捺染デザイン～捺染型作製～印捺） 8. 模様染の基礎 II（捺染概論：固着～洗浄）	9. 各種繊維（木綿・絹・ポリエステル等）の捺染について 10. 特殊捺染や顔料捺染について 11. 無版（インクジェット）捺染について 12. 天然染料による染色について 13. 複合繊維（混紡・交織品）の染色・色とその管理（光源色と物体色・色の表示方法等）について 14. 伝統染色と京都市の繊維工業の現状 15. テスト及びテストを通じての復習
1. 染色加工全般について（染色前処理としての精練漂白・染色法の分類と仕上げ加工） 2. 染料概論（染料に関する各種話題について）、染料の種類と基本染法・特徴等 3. 染色の基礎（染めるという事―染色現象を正しく理解するため） 4. セルロース系繊維（木綿・麻・レーヨン等）の浸染 5. たんぱく系繊維（絹・羊毛）の浸染 6. 半合成・合成繊維（アセテート・ナイロン・ポリエステル）の浸染 7. 模様染の基礎 I（捺染概論：捺染デザイン～捺染型作製～印捺） 8. 模様染の基礎 II（捺染概論：固着～洗浄）	9. 各種繊維（木綿・絹・ポリエステル等）の捺染について 10. 特殊捺染や顔料捺染について 11. 無版（インクジェット）捺染について 12. 天然染料による染色について 13. 複合繊維（混紡・交織品）の染色・色とその管理（光源色と物体色・色の表示方法等）について 14. 伝統染色と京都市の繊維工業の現状 15. テスト及びテストを通じての復習						

教科 No.	2236	授業科目	染織工芸材料学		単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○藤井健三				開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																		
<p>【授業目標】 染織に用いる繊維や用具および道具をよく知ることで、衣料をはじめ生活における染織の重要性と多様性を認識し、各種の染織技法や技術の理解を通して工芸製作の実際に役立てる。</p> <p>【授業概要】 染織の原材料である繊維について、またその種類と機能を詳細に説明し、さらに多種の織物機材や染色材料と用具、および技術技法について説明をする。それら技法の代表例を取り上げながら材料と技術の密接な関係について解説する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1.「繊維とは」。繊維の分類と名称、その性質、特に天然繊維と化学繊維の特質と用途を解説する。</td> <td>9.「伝統色彩と材料」。伝統色彩について、その色彩と色料について解説する。</td> </tr> <tr> <td>2.「麻と木綿繊維」。植物繊維の代表である麻と木綿繊維の製糸と性質、用途を解説する。</td> <td>10.「伝統色彩の染色」。天然染料の化学、および天然染料の染方と材料を解説する。</td> </tr> <tr> <td>3.「毛繊維」。動物繊維の代表である毛繊維の紡績と性質、用途および撚糸を解説する。</td> <td>11.「型染技法と材料」。型染技法の摺染および型糊防染、写し糊友禅染の技法と材料を解説する。</td> </tr> <tr> <td>4.「蚕と絹糸」。絹糸生産における養蚕と製糸の工程。および絹糸の組成を解説する。</td> <td>12.「手描友禅染技法と材料」。糸目糊友禅染の技法と材料、その技術の歴史と友禅染各種を解説する。</td> </tr> <tr> <td>5.「織物組織」。織物の種類、および各織物の基本的なおり組織を解説する。</td> <td>13.「絞り染め技法と材料」。絞り染技法の種類と素材を解説する。</td> </tr> <tr> <td>6.「織技法と材料の発達」。各種織組織の技法と材料、その歴史と発達を解説する。</td> <td>14.「刺繍技法と材料」。刺繍技法と糸素材を解説する。</td> </tr> <tr> <td>7.「紋織物の種類と材料」。紋織物の技法と種類、織技全般の技術発達と織機を解説する。</td> <td>15.「試験および予備」</td> </tr> <tr> <td>8.「紋織技術と機織装置」。錦織物における特殊技法と、綜就と紋揚装置を解説する。</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 筆記試験およびレポート提出のいずれかで評価。出席数を考慮する。</p> <p>【履修上の注意】 講義の内容が専門的で多様となるため、染織工芸について多少の予備知識を持って受講してほしい。</p> <p>【教科書】 授業毎に印刷物を配付して教材とする。</p> <p>【参考書等】 授業毎に適切な参考書を紹介する。</p> <p>※備考 多種多様にある染織工芸の実態と実質を知ってもらうために、繊維のみの知識にとどまることなく染織工芸全般について技法と材料の学習をしてもらう。</p>							1.「繊維とは」。繊維の分類と名称、その性質、特に天然繊維と化学繊維の特質と用途を解説する。	9.「伝統色彩と材料」。伝統色彩について、その色彩と色料について解説する。	2.「麻と木綿繊維」。植物繊維の代表である麻と木綿繊維の製糸と性質、用途を解説する。	10.「伝統色彩の染色」。天然染料の化学、および天然染料の染方と材料を解説する。	3.「毛繊維」。動物繊維の代表である毛繊維の紡績と性質、用途および撚糸を解説する。	11.「型染技法と材料」。型染技法の摺染および型糊防染、写し糊友禅染の技法と材料を解説する。	4.「蚕と絹糸」。絹糸生産における養蚕と製糸の工程。および絹糸の組成を解説する。	12.「手描友禅染技法と材料」。糸目糊友禅染の技法と材料、その技術の歴史と友禅染各種を解説する。	5.「織物組織」。織物の種類、および各織物の基本的なおり組織を解説する。	13.「絞り染め技法と材料」。絞り染技法の種類と素材を解説する。	6.「織技法と材料の発達」。各種織組織の技法と材料、その歴史と発達を解説する。	14.「刺繍技法と材料」。刺繍技法と糸素材を解説する。	7.「紋織物の種類と材料」。紋織物の技法と種類、織技全般の技術発達と織機を解説する。	15.「試験および予備」	8.「紋織技術と機織装置」。錦織物における特殊技法と、綜就と紋揚装置を解説する。	
1.「繊維とは」。繊維の分類と名称、その性質、特に天然繊維と化学繊維の特質と用途を解説する。	9.「伝統色彩と材料」。伝統色彩について、その色彩と色料について解説する。																					
2.「麻と木綿繊維」。植物繊維の代表である麻と木綿繊維の製糸と性質、用途を解説する。	10.「伝統色彩の染色」。天然染料の化学、および天然染料の染方と材料を解説する。																					
3.「毛繊維」。動物繊維の代表である毛繊維の紡績と性質、用途および撚糸を解説する。	11.「型染技法と材料」。型染技法の摺染および型糊防染、写し糊友禅染の技法と材料を解説する。																					
4.「蚕と絹糸」。絹糸生産における養蚕と製糸の工程。および絹糸の組成を解説する。	12.「手描友禅染技法と材料」。糸目糊友禅染の技法と材料、その技術の歴史と友禅染各種を解説する。																					
5.「織物組織」。織物の種類、および各織物の基本的なおり組織を解説する。	13.「絞り染め技法と材料」。絞り染技法の種類と素材を解説する。																					
6.「織技法と材料の発達」。各種織組織の技法と材料、その歴史と発達を解説する。	14.「刺繍技法と材料」。刺繍技法と糸素材を解説する。																					
7.「紋織物の種類と材料」。紋織物の技法と種類、織技全般の技術発達と織機を解説する。	15.「試験および予備」																					
8.「紋織技術と機織装置」。錦織物における特殊技法と、綜就と紋揚装置を解説する。																						

教科 No.	2237	授業科目	構造力学		単位数	集中30時間 2単位
担当教員	○尾崎昌彦				開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上		
<h1>今年度休講</h1>						

教科 No.	2238	授業科目	建築法規	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	○高尾洋史			開講学期	後期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 建築・インテリアを計画・設計する上で、必要条件の一つである建築基準法関係法令を学習し、最低限の知識習得に努める。</p> <p>【授業概要】 教科書を中心にイラスト解説・パワーポイント資料説明を交え、学生の認識程度を確認しながら授業を進める。 (建築基準法, 同施行令, 建築士法, 都市計画法, 消防法, 等)</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション, 建築基準法の構成, 目的・概要</td> <td>9. 建築基準法 第3章 集団規定1, 関連施行令</td> </tr> <tr> <td>2. 法令用語, 制度規定</td> <td>10. 建築基準法 第3章 集団規定2, 関連施行令</td> </tr> <tr> <td>3. 建築基準法 第1章 総則, 関連施行令</td> <td>11. 建築基準法 第3章 集団規定3, 関連施行令</td> </tr> <tr> <td>4. 建築基準法 第2章 単体規定1, 関連施行令</td> <td>12. 建築基準法 第3章 集団規定4, 関連施行令</td> </tr> <tr> <td>5. 建築基準法 第2章 単体規定2, 関連施行令</td> <td>13. 建築基準法 第4~7章, 関連施行令, 施行規則</td> </tr> <tr> <td>6. 建築基準法 第2章 単体規定3, 関連施行令</td> <td>14. 関係法令 (建築士法, 都市計画法, 消防法, 宅地造成等規制法, 景観法, パリアフリー法, 品確法, 長期優良住宅, 瑕疵担保責任法)</td> </tr> <tr> <td>7. 建築基準法 第2章 単体規定4, 関連施行令</td> <td>15. 筆記試験</td> </tr> <tr> <td>8. 建築基準法 第2章 単体規定5, 関連施行令</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 100点満点の筆記試験を実施し、出席状況との総合判断で評価する。試験は教科書、参考書持込み可とする。</p> <p>【履修上の注意】 建築士資格試験を受験する者は必須条件</p> <p>【教科書】 超入門 建築基準法 / イラスト解説による (監修) 小西敏正, 市谷出版社, ¥2,310 (税込)</p> <p>【参考書等】 基本建築関係法令集 (法令編) (編集) 国土交通省住宅局建築指導課 + 建築技術者試験研究会, 霞が関出版社, ¥2,940 (税込)</p>						1. オリエンテーション, 建築基準法の構成, 目的・概要	9. 建築基準法 第3章 集団規定1, 関連施行令	2. 法令用語, 制度規定	10. 建築基準法 第3章 集団規定2, 関連施行令	3. 建築基準法 第1章 総則, 関連施行令	11. 建築基準法 第3章 集団規定3, 関連施行令	4. 建築基準法 第2章 単体規定1, 関連施行令	12. 建築基準法 第3章 集団規定4, 関連施行令	5. 建築基準法 第2章 単体規定2, 関連施行令	13. 建築基準法 第4~7章, 関連施行令, 施行規則	6. 建築基準法 第2章 単体規定3, 関連施行令	14. 関係法令 (建築士法, 都市計画法, 消防法, 宅地造成等規制法, 景観法, パリアフリー法, 品確法, 長期優良住宅, 瑕疵担保責任法)	7. 建築基準法 第2章 単体規定4, 関連施行令	15. 筆記試験	8. 建築基準法 第2章 単体規定5, 関連施行令	
1. オリエンテーション, 建築基準法の構成, 目的・概要	9. 建築基準法 第3章 集団規定1, 関連施行令																				
2. 法令用語, 制度規定	10. 建築基準法 第3章 集団規定2, 関連施行令																				
3. 建築基準法 第1章 総則, 関連施行令	11. 建築基準法 第3章 集団規定3, 関連施行令																				
4. 建築基準法 第2章 単体規定1, 関連施行令	12. 建築基準法 第3章 集団規定4, 関連施行令																				
5. 建築基準法 第2章 単体規定2, 関連施行令	13. 建築基準法 第4~7章, 関連施行令, 施行規則																				
6. 建築基準法 第2章 単体規定3, 関連施行令	14. 関係法令 (建築士法, 都市計画法, 消防法, 宅地造成等規制法, 景観法, パリアフリー法, 品確法, 長期優良住宅, 瑕疵担保責任法)																				
7. 建築基準法 第2章 単体規定4, 関連施行令	15. 筆記試験																				
8. 建築基準法 第2章 単体規定5, 関連施行令																					

教科 No.	2239	授業科目	保存科学入門	単位数	週1コマ 2単位																
担当教員	高林弘実			開講学期	前期																
履修条件			履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 文化財の保存・修復に関連する「保存科学」という学問領域の概要を理解する。</p> <p>【授業概要】 「保存科学」は、文化財の構造・材質およびそれらの劣化現象を科学的に解明し、その知見を文化財の保存と修理に役立たせることを目的として発展してきた学問領域です。本講義では、「保存科学」の概説をします。概要を理解する上で必要な自然科学の基礎知識についても適宜講義をする予定です。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 保存科学とは① 文化財とは</td> <td>9. 文化財の自然科学的な調査でわかること④ 文化財の劣化</td> </tr> <tr> <td>2. 保存科学とは② 文化財と自然科学</td> <td>10. 文化財の劣化要因① 温度・湿度</td> </tr> <tr> <td>3. 文化財を構成する材料とその物質的なりたち</td> <td>11. 文化財の劣化要因② 光</td> </tr> <tr> <td>4. 文化財の自然科学的調査法① 光学的手法</td> <td>12. 文化財の劣化要因③ 空気汚染</td> </tr> <tr> <td>5. 文化財の自然科学的調査法② 機器分析による調査</td> <td>13. 文化財の劣化要因④ 生物</td> </tr> <tr> <td>6. 文化財の自然科学的な調査でわかること① 材料・技法の同定</td> <td>14. 文化財の劣化要因⑤ 振動・災害</td> </tr> <tr> <td>7. 文化財の自然科学的な調査でわかること② 産地推定</td> <td>15. 期末試験</td> </tr> <tr> <td>8. 文化財の自然科学的な調査でわかること③ 年代の推定</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末試験の成績に講義への参加度を加味して評価する</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書等】 『文化財のための保存科学入門』 京都造形芸術大学編 角川書店発行 (2800円), 『文化財保存科学ノート』 沢田正昭著 近未来社発行 (2381円) ※備考 事情により、授業内容の変更もあります。</p>						1. 保存科学とは① 文化財とは	9. 文化財の自然科学的な調査でわかること④ 文化財の劣化	2. 保存科学とは② 文化財と自然科学	10. 文化財の劣化要因① 温度・湿度	3. 文化財を構成する材料とその物質的なりたち	11. 文化財の劣化要因② 光	4. 文化財の自然科学的調査法① 光学的手法	12. 文化財の劣化要因③ 空気汚染	5. 文化財の自然科学的調査法② 機器分析による調査	13. 文化財の劣化要因④ 生物	6. 文化財の自然科学的な調査でわかること① 材料・技法の同定	14. 文化財の劣化要因⑤ 振動・災害	7. 文化財の自然科学的な調査でわかること② 産地推定	15. 期末試験	8. 文化財の自然科学的な調査でわかること③ 年代の推定	
1. 保存科学とは① 文化財とは	9. 文化財の自然科学的な調査でわかること④ 文化財の劣化																				
2. 保存科学とは② 文化財と自然科学	10. 文化財の劣化要因① 温度・湿度																				
3. 文化財を構成する材料とその物質的なりたち	11. 文化財の劣化要因② 光																				
4. 文化財の自然科学的調査法① 光学的手法	12. 文化財の劣化要因③ 空気汚染																				
5. 文化財の自然科学的調査法② 機器分析による調査	13. 文化財の劣化要因④ 生物																				
6. 文化財の自然科学的な調査でわかること① 材料・技法の同定	14. 文化財の劣化要因⑤ 振動・災害																				
7. 文化財の自然科学的な調査でわかること② 産地推定	15. 期末試験																				
8. 文化財の自然科学的な調査でわかること③ 年代の推定																					